

お庄厳しょうこん



浄土真宗本願寺派
徳勝寺

<http://www.daigo.or.jp/>

〒769-2321
香川県さぬき市寒川町石田東甲618

電話 0879(43)2023
Fax 0879(23)2008
booze@daigo.or.jp

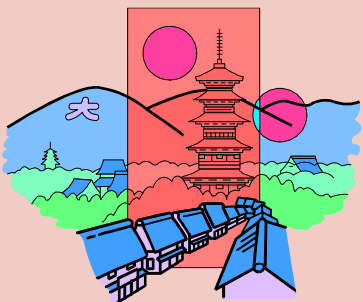
いつもご法事でお勤めしている『仏説無量寿経』というお経の中に、お浄土の様子を詳しく書いてくださっています。お仏壇は、そのお浄土の様子を写したものです。

こんなに美しいお浄土なのだから、あなたも是非にいらっしやいね、と阿弥陀様が呼んでいてくださることを、知らせるためにお仏壇をお迎えしているのです。ですから、いつもお仏壇は美しくお荘厳しましょう。

お浄土へお参りになっておられるご先祖さ

まは、仏・菩薩となって、今この時にも私たちのことを願っていて下さいます。そのことに気づかせていただき、私を呼んでいてくださる阿弥陀様のお名前を「南無阿弥陀仏」と称えて、願われ支えられていることをよるこばせて頂きます。

そして、お仏壇のように光り輝くお浄土に迎えとられて、私たちも仏様にさせていただけます。



毎日のお勤め

お寺でも、毎日のお勤めはかかせませんが、ご家庭でも毎日お仏壇でのお勤めを大切にしてください。難しいお勤めでなくても構いません。本願寺では『正信偈』をお勤めするようお願いくださっています。『讃仏偈』や『重誓偈』などでも良いです。

なお、徳勝寺では毎朝6時半からお勤めしております。7時には終わる短いお勤めですので、散歩の足を伸ばして、お寺にお参りください。

1.法要の種類

年忌法要（一周忌や三回忌）
祥月命日（毎年のお命日）
月命日（月命日のお参り）
御正忌（親鸞聖人の報恩講）

どのお勤めも、お参りになる人たちの都合に合わせてできるだけたくさんお参りできるようにしましょう。ご法要をご縁に、一人でも多くの人たちに阿弥陀様のお慈悲が届くようにしたいものです。時間などは電話でけしつです。寺と打ち合わせください。

徳勝寺の法要

修正会	元旦
春季彼岸会	3月彼岸
降誕会	5月21日
夏参り盆会	7月中旬
秋季彼岸会	9月彼岸
報恩講	12月初旬
除夜会	大晦日

寺から案内状が参りますので、ぜひともお参りしてお説教をお聴きください。他の行事についてはカレンダーをご覧ください。



あつて欲しくないことですが、どなたかがお亡くなりになつたら、さまざまに法要でお送りいたします。まず最初に、寺に連絡ください。できる限り早く伺います。

お仏壇は、打敷を裏返して、白くします。花瓶には櫛だけを挿し、三具足とします。遺体の前に経机を置き、三具足を設えます。

枕経

本当は、臨終前に、安心してお浄土往生できるように、住職が最後の法話をするお勤めです。今は生前に間に合わなかつたので、生きておられる間にしてお勤め

をいたします。ご家族も揃って、静かにお念仏いたしますよう。

お通夜

亡き人からいただいた「恩」を、偲ばせていただく大切な時間です。お勤めと法話が終わると、通夜振舞い、手洗い酒などを出します。

お葬式

ご縁のあつた人が集まって、厳かに送りいたします。

お骨あげ

火葬場からお帰りになると、最初に還骨会を行います。初七日法要と兼ねることが多いようです。

七日参り

七日目の朝、ご本堂にお礼参りをいたします。お供えや供花などをお持ちになり、近隣の親戚とお参りください。

七日勤め

一週間ごとにご近くの親戚が集まって、お勤めをいたします。

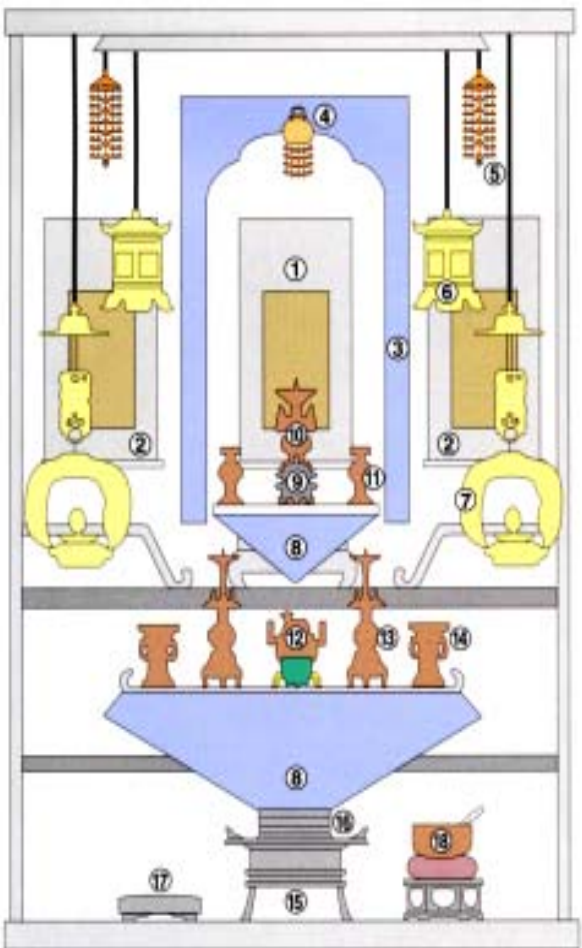
中陰法要

七日目、中陰法要を行います。通常、三部経のお勤めをします。

百日

七日勤めと同じように、百日の法要をいたします。

お仏壇のお荘厳



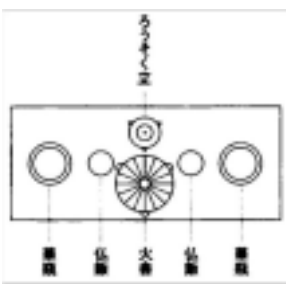
- ご本尊
- 脇掛(左右一対)
- 戸帳
- 華鬘
- 環珞
- 金灯籠
- 輪灯
- 打敷
- 火舎(手前)
- 蠟燭立(奥)
- 華瓶一対
- 香炉一基
- 蠟燭立(一対)
- 花瓶(一対)
- 経卓
- 和讃、勸行聖典
- 御文章箱
- リン

前卓(五具足) 上卓(四具足)

お仏壇には、毎日お仏飯をお供えいたします。お仏飯は、お供えしてお勤めが終わつたら、お下げしなす。一日中お供えしたままにするのはもつたないです。

またお仏飯は、ご飯が炊き上がったときにお供えしてください。

お仏飯は、左のように蓮のぼみ型にお盛りいたします。



上卓には、右のように四具足とお仏飯を配置します。華瓶には、櫛(しきみ)を挿します。もし櫛がなければ、お水だけを入れ替えてください。お茶はまつりません。



前卓には、上のように五具足か三具足を置きます。通常は左の二具足にします。片前という嫌う方もおられますが、ご本山でも通常は三具足です。お祥月命日やご法事には、右の五具足にします。



お蠟燭は、通常は白色です。お祝い事や御正忌、七回忌以降の法事には、朱色の蠟燭を使います。

の金香炉の前に土香炉が置かれます。

お線香は、この土香炉に入れ、ますが、下の図のように、大きさに合わせて折って横に寝かせてください。お線香を立てると、火力が強いのでは、間違いがあつてはいけません。

